

## スギ花粉症に対する舌下免疫療法について



耳鼻咽喉科 部長  
八木 昌人

スギ花粉症の方にとっては、うっとおしい季節がやってきました。かく云う私もその一人です。とくに、今年は昨年に比べスギ花粉の飛散量の増加が予想されており頭の痛いところです。スギ花粉症に対しては様々な治療法がありますが、現在一般的に行われている薬

による治療は、抗アレルギー剤と言ってアレルギーによって生じたヒスタミンなどの化学物質をブロックするもので、アレルギーそのものを抑えるものではありません。スギ花粉症の理想的な治療法は、スギ花粉に対してアレルギーをおこさせないようにすることです。減感作療法とよばれるこの治療は、従来はスギ花粉エキスを低い濃度から次第に高い濃度へと長期間にわたって皮下注射していくことによっておこなわれてきました。しかし、長期間にわたる注射や、アレルギーを起こさせる物質を注射で体内に入れることによる危険性などが普及を阻んできました。そこで、もう少し簡便な方法として開発されたのが、舌下免疫療法です。これはスギ花粉エキスを舌下投与していくことにより、減感作を図ろうというものです。具体的にはスギ花粉エキスを舌の下に垂らして2分間保持した後飲み込みます。2週間で次第に濃度を上げていき3週間目に維持量に達し、その後は2～3年間継続します。この治療は内服薬のため全

身的な合併症の危険性が低く、また自宅での治療が可能となったことから注目を集めています。この治療のためにいくつかの注意点があります。まず、血液検査でスギ花粉アレルギーが確認されていること、12歳以上で花粉の非飛散期を含め2～3年毎日内服が可能なこと、重症の喘息の合併がないことです。また、ステロイド、抗癌剤、 $\beta$ 遮断薬を使用している方も治療できないため、継続している薬があれば確認しておく必要があります。治療の開始時期がスギ花粉の非飛散期と決められているため、来シーズンにむけては7月から治療が可能となります。そして、11月までに開始できれば来シーズンの効果が期待できます。また、妊娠中の方は治療を開始できませんが、治療中に妊娠した場合は継続可能です。スギ花粉症に対する舌下免疫療法は約80%に症状の軽減が認められています。ただ、スギ花粉の非飛散期を含め2～3年毎日内服が必要であること、またこの効果は残念ながら永続的ではないこと、そして、なによりnon-responderとよばれる治療効果の低い方が約20%いることなどから、治療開始にあたっては今まで述べたことを十分理解していただくことが必要です。なお、この治療の安全性は高いですが、ごく少数ですが全身的な合併症がみられることから、舌下免疫療法に関する講習会とe-learningを受講した医師のみが処方可能となっており、最初の服用の際は医師が立会、最低30分の経過観察が義務付けられています。この治療を希望される患者さんがいらっしゃれば、当科で対応いたしますので、お気軽にご相談ください。



# 乳腺外来について

外科主任医長  
緒方 晴樹



今回は、私たちが担当する「乳腺外来」について、ご説明いたします。

乳腺とは、「おっぱい」を少し詳しく説明した医学用語になります。「おっぱい」は、医学用語では「乳房」に当たり、その中身の母乳を作る腺の集まりを「乳腺」と呼びます。葡萄の房を思い描くとわかりやすいと思います。この乳腺におきる病気を診断、治療する科が乳腺外科です。

乳腺におきる最も手強い病気が、乳がんです。40～50歳に最も多く、女性のがんの中で罹患率（がんになる率）ナンバー1です。働き盛りの女性を襲う恐ろしいがんですが、早期発見・適切な治療が完治への最善の道筋です。硬いしこりを認めて診断に至ることが多い病気ですが、最近は検診によって、しこりを自覚する前に発見される「非触知乳がん」も多くなりました。しこり以外にも、違和感や乳頭からの出血などの症状があれば、是非、乳腺外科を受診して下さい。乳がんの他に、乳腺には線維腺腫や葉状腫瘍という大きく育つ腫瘍もあり、超音波検査・マンモグラフィ・針生検などの検査で総合的に診断・治療をいたします。

## 外来日

月曜日・金曜日：午前・午後  
火曜日・水曜日・木曜日：午前

## 人間ドックセンターに検査室

が設置されました

人間ドックセンター部長 坂口 正高



この4月より人間ドックセンター内に、ドック専用の内視鏡室が3室設置されました。胃内視鏡を希望されるドック受診の方には、従来は東京通信病院内視鏡センターで検査を受けて頂いており、また内視鏡センターの一室のみの利用のため検査数が限られ、内視鏡を希望される方全員には受けて頂くことができませんでした。最近では胃内視鏡検査の重要性が認識され、ドック受診者でも胃内視鏡検査を希望される方が増加してきました。

日本人間ドック学会の発表によりますと、胃癌の早期癌発見比率は1984年には70.0%でありましたが次第に増え2013年には82.5%となり、この増加はドックで胃内視鏡検査が広く施行されるようになったためと考えられています。未だにドックで広く施行されているバリウムによる胃透視検査では、胃壁の変形が認められない早期癌の発見はまず不可能で、また食道癌の発見は更に困難であり、ドックでの全例胃内視鏡の導入が待たれていました。

これからは胃内視鏡検査希望の方には、ほぼ全員に胃内視鏡検査を受けて頂けることとなり、より早期の胃癌の発見が増えると思われま



(内視鏡室)



(内視鏡室)



# 白内障闘病記



精神科部長 亀山 知道

前回まで、うつ病について書いてきました。次は、神経症について書く予定でしたが、神経症の話は次回以降に回して、今回は予定を変更して、白内障闘病記を書きます。

昨年の8月に、86歳の私の母が当院の眼科で白内障の手術を受けました。母は以前から左眼が悪く、目の前の物があまり見えません。右眼は白内障だけなので、目の前の物は見えるのですが、暗いと見えにくくなります。ある日の昼間、暗い部屋で、自分のまん前に立っている人が見えなかったというショックな経験をして、白内障の手術を受ける決意をしました。

通院中のクリニックの先生に紹介状を書いていただき、当院の眼科外来の予約を取って、受診しました。詳しい検査の結果、右眼の白内障の手術を行なうことになりました。母の右眼の白内障の手術は3泊4日の入院で行なわれました。具体的には、木曜日に入院。入院2日目の金曜日に手術。3日目の土曜日は様子を見て、4日目の日曜日に退院でした。

手術は局所麻酔で行なわれました。母によると、局所麻酔なので意識はあり、痛みは全くないが、何をやっているか良く見えるのだそうです。それでついつい緊張してしまい、肩に力が入ったと言います。そんな中、手術室の看護師さんに、「手術は順調に進んでいますよ。」と、声をかけていただいたのが、非常に心強かったそうです。

手術が終わって、病室に戻って来た時には、手術を受けた右眼は完全にふさがれておりました。左眼だけではあまりよく見えない母は、「退院の時は、電車では無理。タクシーで帰るしかないね。」と、ちょっと弱気になっていました。夕食はひとりで食べましたが、左眼だけで食べるのは辛そうでした。夜のトイレが心配だったのですが、看護師さんから、「今夜は、トイレに起きる時には必ずナースコールを鳴らして下さい。」と、きつく指示されたのを聞いて、私は帰宅しました。

手術翌日の土曜日は、朝早くに主治医の診察がありました。診察後、眼を保護するステンレスの眼帯を右眼につけて戻ってきました。眼帯にはいくつか穴があいており、その穴から、物がはっきり見えていたのです。「見える。見える。はっきり見える。目が見えるということは素晴らしいことだ。明日、タクシーは必要ない。電車で帰れる。」と、明るい元気な声で、病室に戻ってきました。「右眼の見え方が手術前と全然違う。明るくてはっきり見える。それにしても、私の顔は前からこんなにしみとしわがあったかね。」と、鏡を見ながら言いました。

日曜日の朝早く行ってみると、既に普段着に着替えており、「朝食をいただいたらすぐに退院する。」と言うのです。しかし、看護師さんに、「退院前に医師の診察があります。その結果、医師の許可がおりるまで退院はできません。」と言われました。医師の診察は無事終わり、退院許可がおりました。眼科スタッフ皆様のおかげで、母は目の前が明るくなったばかりでなく、気持ちも明るくなって、元気に退院することができました。

この入院期間中、スタッフの皆様が、一番心を配っていたことは、手術した眼に、絶対に感染を起こさせないことでした。その姿勢は、ひしひしと感じ取ることができました。

白内障手術の入院スケジュールはパターン化されており、マニュアルが作られていることも、患者や患者家族には心強いことでした。マニュアルを読んで事前に準備することができましたし、忘れても読み直して再確認することができました。

最近、白内障の手術を日帰りで行なう施設が増えていると聞きますが、母のように高齢で、時間の余裕がある方には、3泊4日の入院が最良であると感じました。

白内障 術後に気づく しみとしわ



# ていしん 通信 寄り道 マップ

## 春



ていしん  
**東京通信病院**  
〒102-8798  
千代田区富士見2-14-23  
(代) **03-5214-7111**

**東京通信病院  
人間ドックセンター**  
**03-5214-7055**

### ご利用案内

#### 診療科

内科、内分泌・代謝内科、血液内科、神経内科、感染症内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、呼吸器内科、精神科、外科、消化器外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科（関節鏡・スポーツセンター）、婦人科、小児科、眼科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、放射線科、リハビリテーション科、麻酔科（ペインクリニック）、緩和ケア内科、歯科口腔外科、救急科、病理診断科

#### 外来診療日

●月曜日～金曜日（祝日及び年末年始を除く）

#### 予約の方法・予約受付の時間帯等

- 電話での予約…9:00～17:00（土・日・祝日及び年末年始を除く）
- 電話番号………03-5214-7381

#### 時間外（急患）診療

●連絡先………03-5214-7768（救急診療室）

#### 診療受付時間

窓口	午前の診療	8:30～11:00
	午後の診療	12:30～16:00
自動受付機 （予約のある方のみ）		8:00～16:00

#### 人間ドックセンター

●連絡先………03-5214-7055  
オプションで脳ドック、肺がんドックも行っております。



### 東京通信病院で第77回開院記念日開催

2015年2月10日(火)に、東京通信病院で第77回開院記念式典を開催致し、病院に多大な貢献を頂いている方々へ感謝状の贈呈を行いました。今後とも連携を深めながら、より良い診療に努めて参ります。  
(感謝状受賞されました皆様)



- 半蔵門胃腸クリニック 院長 掛谷和俊 様
- 渡邊内科 院長 渡邊龍彦 様
- おかべふじこ内科・循環器クリニック 院長 岡部富士子 様
- 東京薬科大学 様

### 通信病院の歴史

- 昭和13年 2月 診療開始
- 24年 6月 逓信省が郵政省に改正
- 43年 7月 臨床研修実施病院の指定を受ける
- 61年 3月 保険医療機関指定承認、一般開放実施
- 平成8年 2月 救急告示医療機関となる(二次救急)
- 11年 12月 労災保険指定医療機関に指定
- 12年 4月 診療予約制全科実施
- 13年 1月 郵政省が郵政事業庁に改正
- 15年 4月 日本郵政公社発足
- 16年 6月 病院機能評価認定取得(財)日本医療機能評価機構認定(一般病院 Ver4.0)
- 17年 3月 電子カルテシステム稼働
- 19年 10月 日本郵政グループ発足(日本郵政株式会社直轄に)
- 21年 7月 DPC対象病院となる
- 21年 10月 病院機能評価認定更新(一般病院 Ver5.0)
- 22年 9月 人間ドックセンターリニューアルオープン
- 24年 4月 東京都肺がんおよび東京都大腸がん診療連携協力病院の認定を取得
- 24年 10月 がん相談支援室設置
- 25年 1月 緩和ケア病棟設置
- 25年 4月 IVRセンター設置
- 26年 2月 電子カルテシステム更改
- 26年 9月 病院機能評価認定更新(財)日本医療機能評価機構認定(一般病院 3rd G:ver.1.0)

## 新任医師紹介

2015年4月1日採用



呼吸器内科 部長  
おおいし のぶや  
**大石 展也**

呼吸器の病気には、腫瘍、感染症、アレルギー、その他の炎症や線維化など様々な種類があります。何か気になる症状がありましたらお気軽にご相談ください。患者さんとよくお話をしながら診療をすすめていきたいと思っております。



外科 主任医長  
おがた はるき  
**緒方 晴樹**

乳腺外科では乳がんをはじめ、線維腺腫などの乳腺疾患を治療します。乳がん治療は、手術だけでなく化学、内分泌、分子標的薬による治療を行います。是非ご相談下さい。



内分泌・代謝内科 医長  
かつた ひでのり  
**勝田 秀紀**

生活習慣病の背景にホルモン異常が隠れていることもあります。病気の本質を見極めた診療を心がけています。



消化器内科 医師  
かとう ともじ  
**加藤 知爾**

患者さん一人ひとりに合った最適な医療を提供できるよう取り組んで参ります。どうぞよろしくお願い致します。



神経内科 医師  
せき ともなり  
**関 大成**

より多くの患者さんに最適な治療を提供し皆様のお役に立てるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。

腎臓内科 医師  
まつむら みみこ  
**松村 実美子**

丁寧な診療を心がけ、患者さんに信頼されるよう日々努めて参ります。宜しくお願い致します。

2015年2月1日採用



泌尿器科 医師  
えんどう かのり  
**遠藤 圭織**

皆様に安心して安全な医療を提供出来るように努めて参ります。よろしくお願ひ致します。

2015年4月1日異動

小児科 主任医長  
なかざわ さとこ  
**中澤 聡子**

専門のアレルギー疾患のほか乳幼児健診（発達・発育の相談）、起立性調節障害等の診療をいたします。よろしくお願ひ致します。

## 当院を退職しました

2015年3月31日退職

久田 哲哉（呼吸器内科 部長）  
川上 明（整形外科 主任医長）  
阿部 幸枝（麻酔科 主任医長）  
中村由紀子（小児科 医長）

三宅 敦子（内分泌・代謝内科 医師）  
佐藤 元（循環器内科 医師）  
吉田 泰子（腎臓内科 医師）  
三嶋 弘一（眼科 医師）  
牧角 祥美（耳鼻咽喉科 医師）

島谷 直希（放射線科 医師）

2015年1月31日退職

佐藤 俊和（泌尿器科 主任医長）



2015年4月1日採用



内分泌・代謝内科 医師  
まるやま さとこ  
**丸山 聡子**

内分泌代謝疾患や、糖尿病、生活習慣病を主に治療しています。これからどうぞよろしくお願ひ致します。



神経内科 医師  
すずき じゅんこ  
**鈴木 淳子**

患者さん一人一人によりよい医療が提供できるよう努めていきたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。



神経内科 医師  
すぎやま ゆうりょう  
**杉山 雄亮**

神経内科で勤務することとなりました。一人でも多くの患者さんが元気に退院できるよう尽力する所存です。どうぞよろしくお願ひいたします。



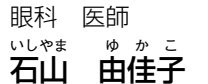
腎臓内科 医師  
うに りえ  
**宇仁 理恵**

愛知県出身で、スポーツが好きです。よろしくお願ひ申し上げます。



小児科 医師  
おざき ゆうすけ  
**尾崎 優介**

外来受診、または入院されたお子さんが、笑顔で帰れるような診察を心掛けております。どうぞよろしくお願ひします。



眼科 医師  
いしやま ゆかこ  
**石山 由佳子**

昨年度まで大学病院に勤務しておりました。皆様のお役に立てるよう努力致します。よろしくお願ひ致します。



眼科 医師  
はしもと ようへい  
**橋本 洋平**

患者さんの視力改善、維持につながる診察を心がけています。よろしくお願ひ致します。



耳鼻咽喉科 医師  
いちじょう けんたろう  
**一條 研太郎**

丁寧な診察とわかりやすい説明を心がけています。どうぞよろしくお願ひします。



放射線科 医師  
わたなべ ゆう  
**渡辺 由**

杏林大学病院から来ました。よろしくお願ひします。



呼吸器内科 医師  
なかしま ゆう  
**中嶋 悠**

4月から呼吸器内科で診療させて頂く事になりました。少しでも皆様の健康にお役立ちできるよう、一生懸命頑張りますので宜しくお願ひします。



内科 医師  
はやし りこ  
**林 瑠理子**

患者さんとご家族が安心して医療を受けられる様、努力していきたいと思ひます。宜しくお願ひいたします。



内科 医師  
かもん たつや  
**加門 辰也**

一般内科外来を担当させて頂きます。気になる症状のある方はぜひ御受診ください。



内科 医師  
たなか まさき  
**田中 督記**

患者さん方の健康のために頑張ります。



内科 医師  
つるみ はなこ  
**鶴見 華子**

患者さんに寄り添う医療を心掛け、実践していく所存です。よろしくお願ひ致します。



# ナースステーション



～‘食べたい’を支えるために～

摂食・嚥下障害看護認定看護師  
副看護師長 寺西 良江

「摂食・嚥下障害看護」あまり聞きなれない難しい言葉ですね。この領域‘食べる’に関わるあらゆる事象（障害）を意味します。つまり「オギャー」とこの世に生を受けたばかりの赤ちゃんから、終末の時を迎えるまでの方々誰もが対象となりうる可能性があります。近年、高齢化が進むうえでますます看護の必要性は拡大するといえます。

‘食べる’ことには3つの大きな意義があります。生命維持のために栄養を身体に取り入れること、活動のためのエネルギーを得ること、そして最も人間らしい欲求の1つでもある味わい、人との交流を楽しむ生活の質を（QOL）保つことがあります。しかし、その反面「摂食・嚥下障害」は誤嚥や窒息のリスクを大きく孕んでおり生命にかかわる深刻な障害です。そのような障害を持つ患者さま、家族の‘食べたい’気持ちを支えるために‘おいしく’‘楽しく’‘安全に’を信念として、あきらめない看護を目指し日々励んでおります。

## 患者満足度調査の実施

第24回

当院では、平成15年以来、年に2回、ご利用者を対象に患者満足度調査（アンケート）を実施させていただいており、1月30日（金）の調査で24回を迎えました。ご協力いただきましたみなさま、ありがとうございました。

これは、みなさまの率直な声をお聞きして、よりよい病院をつくるためのものです。アンケートの結果は、病院として真摯に受け止め、ご期待にそえるよう病院運営に反映させていきたいと考えております。

### 【調査の概要】

- ①対象者 外来：調査日に診察を受ける方全員  
入院：実施日に入院されている方全員  
※ご家族による記載も可能
- ②配布方法 外来：患者さんに交付するファイルに事前組み入れ  
入院：病棟看護師から患者さんに手渡し
- ③回収方法 外来：診療棟に記入台・回収箱を設置し即日回収  
入院：病棟の面会コーナーに回収箱を設置し、1週間後回収
- ④回収率 外来：46.9% 入院：63.5%
- ⑤測定方法 アンケートの質問ごとに、回答内容を「満足」=5点、「ほぼ満足」=4点、「ふつう」=3点、「やや不満」=2点、「不満」=1点として換算し、平均点を算出

### 【アンケート集計結果（概要）】

※詳しい結果につきましては当院ホームページ（<http://www.hospital.japanpost.jp/tokyo/topics/manzoku/index.html>）に掲載しております。

外 来	
質 問 項 目	平均値
施設・設備に関して	3.89
受付及び会計窓口について	3.87
医師の診察について	4.06
看護職員の対応について	4.06
検査、リハビリ等について	4.00
予約に関して	4.26
ホームページに関して	3.64
全般的なことに関して	4.48
全平均	4.03

入 院	
質 問 項 目	平均値
施設・入院生活に関して	3.88
入退院について	4.18
医師について	4.41
看護職員について	4.33
その他の職員に関して	4.33
食事について	3.53
ホームページに関して	3.75
全般的なことに関して	4.55
全平均	4.16